
アメリカの新しい住まいづくりの潮流

(CoHousing in U.S.A.)

1. コウハウジングってどんなもの？

子育て中の核家族や一人暮らし、高齢者など様々な人達が物質的な豊かさよりも人間関係や安全性、そして助け合いによる暮らしの豊かさを求めて始めた住まい方の一つである。北欧で生まれた住まい方であるが、1988年アメリカの建築家デュレ夫妻がデンマークのコレクティブハウジングを研究し米国に合うように変更しながら「コウハウジング」と名付け、草の根的に作り始めた。コミュンなどと区別されるべきは、宗教・イデオロギー、民族によって参加者が成り立っているのではなく、自立と共生を望むごく普通の人たち、が参加していることである。そして世代混交型のこの暮らし方は受け入れられ、現在全米で150余りのコウハウジンググループがあり、なお広がりつつある。

コウハウジングの特徴として次の点があげられる。

(1) 居住予定者の参加

居住予定者は話し合いを持ち、相談しながらプロジェクトの最初から終わりまで参加する。土地の取得、銀行からの借入れ、プラン作り、施工者の選定など全ての部分で住民の参加による決定が基本となる。また、敷地計画、施設、住戸計画など、コミュニティ全体をデザインする

(2) 多世代・ミックス居住

高齢者のみのシニアタウンと異なり、自らが協力し合い事業を行なうので、若い結婚したばかりの夫婦から高齢者まで、年代が様々な人々が参加する。また、人種の異なる人々が一緒に住んでいる。収入面でも多様な人々が住むように、アフォーダブル住宅（支払い可能な値段で入居ができる）システムを取り入れたり、賃貸住宅などもミックスしている。障害者のグループハウスを取り込んだものもある。

(3) 共同の施設と共同管理

自分たちの自宅の他に共同で使用する施設を持つ。コモンハウスと呼ばれるこの施設には住民の希望で様々な設備が施される。共同で利用するキッチンと食堂、子供の遊び場や工房、図書館といったようなものが住民の協議で作られる。中庭や菜園、鶏小屋、ジャグジーなどの施設がある場合もある。

住人管理組合が作られ、芝生のメンテナンス、ペンキ塗り、ゴミの管理など全ての管理を住人が運営委員会をつくり、作業を分担しあっている。

(4) エコロジカルデザイン

人を優先した敷地内交通（原則として敷地内の車の進入の禁止）、地球環境全体を考えた省エネルギー、省資源、自然エネルギー利用など

(5) 協同の食事

コミュニケーションを取るために週に何回かは一緒に食事をとる。

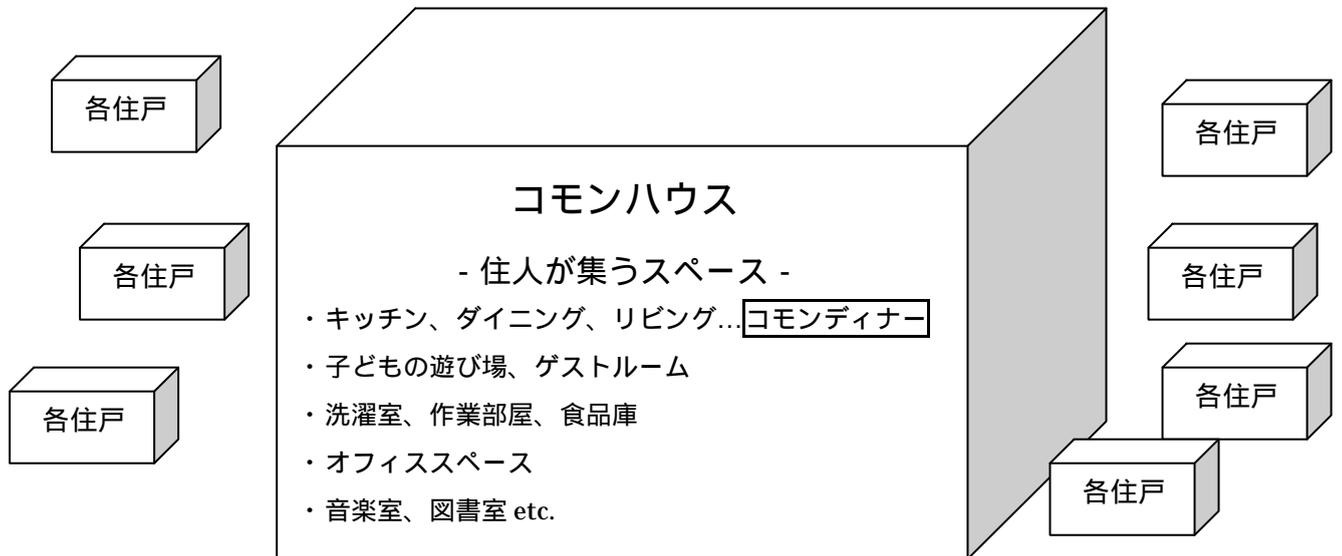
2. コウハウジングの暮らし

住人たち

- 赤ん坊から高齢者まで -
- ・多世代、さまざまな家族構成の人たち
(子育て世帯、片親世帯、シングル)
- ・リベラルで学歴は概して高い
- ・少ない有色人種

安全、安心

- ・子どもたちを安心して遊ばせることができる
- ・互いに声をかけあうことができる
コミュニティ
- ・Family of Choice !



コミュニティワーク&楽しみ

- ・みんなでルールを決め役割分担
- ・食事当番は多くても月1回程度
- ・家の管理、子どもたちのケア、庭の手入れ、会議運営、会計、広報などさまざま。
- ・誕生日会やパーティーなども楽しむ

エコロジー

- ・資源の分別
- ・リサイクルマテリアルの利用
- ・ソーラーシステム、
- ・地下水を利用した空調システム
- ・オーガニックガーデン

3. コウハウジングをつくるプロセス

住人の役割

